

令和8年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立小田川小学校長

令和8年4月23日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数の2教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	60.9%					○
算数	56.4%					○

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	66.8%					○
情報の扱い方に関する事項	52.3%					○
話すこと・聞くこと	65.8%					○
書くこと	45.7%					○
読むこと	65.9%					○

【考 察】

- 全ての領域で全国平均を上回りました。「読むこと」の領域では、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができたかどうかをみる」問題の正答率が高く、授業や家庭学習において読解や作文の活動を継続してきたことが成果につながったと考えられます。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は、全ての問題で高い正答率を示しました。特に、「文章の特徴として適切なものを選択する」問題の正答率が高く、話や文章の種類とその特徴について理解する力が高まっていることが分かります。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	61.1%					○
図 形	55.3%					○
測 定	78.1%	○				
変化と関係	41.1%					○
データの活用	48.6%					○

【考 察】

- 記述式の正答率は、全ての問題で全国平均を大きく上回りました。授業において、答えや問題の解き方の確認だけにとどまらず、その解決方法を選んだ理由や解決に至るまでの自分の考え等を説明する活動を大切にしてきた成果だと考えます。
- 「測定」の領域では、「昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で『前半』に使える時間は何分間かを書く」問題に課題が見られました。「示された情報を図に整理し、そこに時間を書き加えることで数量関係を捉える」など、筋道を立てて考える力を高められるよう指導していきます。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立小田川小学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、児童の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
小	全 国	28.7	50.7	17.1	2.7
6	小田川小	50.0	33.3	16.7	0.0

(単位 %)

【考 察】

- ICTを活用した「個別学習」や「学び方についての指導」の効果が表れていると考えられます。さらに、自主学習の内容をお互いに知る機会を設定してきたことで、友達の学び方の工夫を参考に、自らの学びに活かすことができる児童が増えています。
- 今後も児童の実態に合わせた学び方について、個別にきめ細かく支援するよう努めていきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
小	全 国	10.5	11.1	28.3	29.1	14.5	5.7
6	小田川小	0.0	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 本校の「生活のきまり」として推奨してきた家庭学習時間（学年×10分＋20分）を意識して取り組む児童が前年度よりもさらに増え、8割以上の児童が1時間以上の家庭学習等に取り組んでいます。
- 家庭学習への取り組みに対する担任の称賛や家庭学習ノートの掲示を今後も継続し、更なる学習意欲の向上につなげていきます。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
小	全 国	3 1. 4	4 7. 0	1 7. 2	3. 4
6	小田川小	3 3. 3	5 0. 0	0. 0	0. 0

(単位 %)

【考 察】

- 日頃の授業で、まとめや振り返りを大切にした学習を進めてきたことにより、授業で得た成果や課題を次の学習につなげることができていると考えられます。
- 教科担任制による指導や I C Tを活用した個別学習、個別指導を効果的に実施し、既習内容を活かして積極的に新たな課題に取り組んでいくことができる児童を育てていきます。

4 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない	学級の友達との間で話し合う 活動を行っていない
小	全 国	4 3. 5	4 2. 2	1 0. 6	2. 4	0. 7
6	小田川小	6 6. 7	3 3. 3	0. 0	0. 0	0. 0

(単位 %)

【考 察】

- 全ての児童が、学級の友達と話し合い活動を肯定的に捉えています。協働的な学び・探究的な学びを意識した授業により、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることが実感できたからだと考えられます。
- 今後も、各種行事や学習場面において、話し合う活動を重視しながら、互いに協力して課題解決に取り組むことができるよう指導していきます。